

# 令和3年度 第3回徳島県GIGAスクール構想推進本部

## 次 第

日時 令和4年3月14日（月）  
午後1時から午後2時30分まで  
方法 Web会議

- 1 開会
- 2 開会挨拶
- 3 協議
  - (1) 本部からの報告
  - (2) 各部会からの報告
  - (3) その他
- 4 閉会挨拶
- 5 閉会

### <配布物一覧>

- ・次第，出席者名簿
- ・部会協議の実施概要
- ・【報告1】小学校部会
- ・【報告2】中学校部会
- ・【報告3】高等学校学校部会
- ・【報告4】特別支援学校学校部会
- ・【報告5】不登校児童生徒学びの支援検討部会
- ・【資料1】ICTスキル習得体系表
- ・【資料2】重点目標に沿った研修事例（小学校）
- ・【資料3】重点目標に沿った研修事例（中学校）
- ・【資料4】重点目標に沿った研修事例（高等学校）
- ・【資料5】重点目標に沿った研修事例（特別支援学校）

令和3年度 第3回徳島県GIGAスクール構想推進本部 出席者名簿

(敬称略)

所属及び役職	氏名	備考
徳島県教育委員会 教育長	榊 浩一	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長	松本 賢治	
徳島県教育委員会 副教育長	白杵 一浩	
徳島県小学校長会 会長	安田 哲也	
徳島県中学校長会 会長	杉本 恭介	
徳島県高等学校長協会 会長 徳島県立徳島北高等学校 校長	(儀宝 修) 桂 啓人	(欠席) 代理出席
徳島県高等学校長協会 特別支援教育部会 部会長	上野 清文	
徳島県教育委員会 教育次長(県立学校担当)	藤本 和史	
徳島県教育委員会 教育次長(小中学校担当)	藤田 完	
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	高崎 美穂	
徳島県教育委員会 教職員課 課長	今田 潤	
徳島県教育委員会 学校教育課 課長	木屋村 浩章	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 課長	向井 佳子	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	田中 清章	
徳島県教育委員会 人権教育課 課長	森下 稲子	
徳島県教育委員会 人権教育課 いじめ問題等対策室 室長	高畑 聖	
徳島県教育委員会 体育学校安全課 課長	吉岡 直彦	
徳島県教育委員会 生涯学習課 課長	藤井 宏孝	
徳島県立総合教育センター 所長	古味 俊二	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	新見 敏彦	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	上萩 琴美	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 課長	濱口 和弥	

事務局

徳島県立総合教育センターGIGAスクール推進課	班長 黒田 收 班長 橋本 史朗 班長 平田 義明
-------------------------	---------------------------------

## 部会協議の実施概要

### 1 設置の趣旨（設置要綱より）

徳島県GIGAスクール構想では、義務教育段階から高等学校段階に至るすべての学年に1人1台端末を整備し、これまで培ってきた「授業改善」の上に、最先端のICTを取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、多様な子供たちの可能性を最大限引き出すことのできる、新時代に対応した資質・能力の育成を目指すため、「徳島県GIGAスクール構想推進本部（以下、「推進本部」という。）」を設置し、組織的かつ効果的な推進を図る。

### 2 推進目標

#### （1）将来を見据えた推進目標

「Society5.0を見据えた資質・能力の育成」

#### （2）本年度の推進目標

「発達段階に応じた積極的活用の推進」

### 3 各部会重点目標

#### （1）小学校部会

タブレットを日常的に活用した学びの推進

#### （2）中学校部会

「主体的・対話的で深い学び」につながるタブレットを活用した授業改善  
～「どんどん」「みんなて」タブレットを活用して「わかる・できる授業」の実践～

#### （3）高等学校部会

タブレットの日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」  
の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

#### （4）特別支援学校部会

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進  
～みんなて「I（いつも）C（ちょっと）T（たのしい）」活用を～

#### （5）総務部会

持続可能なGIGAスクール構想推進に向けた制度設計の提案

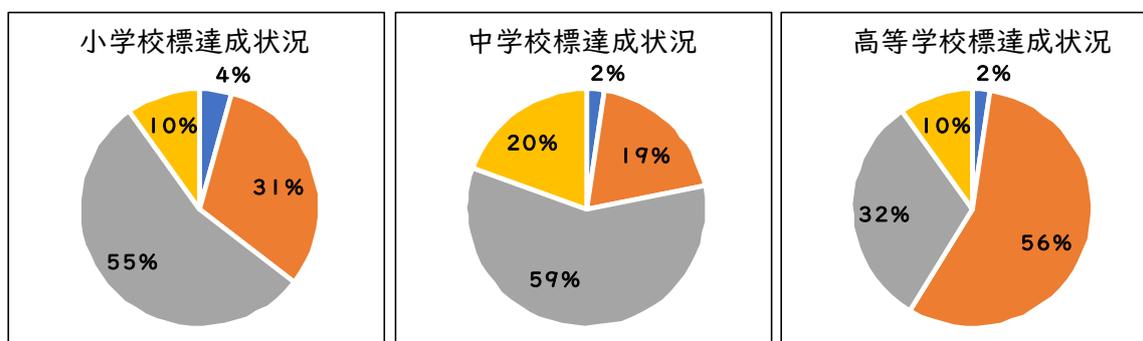
#### （6）不登校児童生徒の学びの支援検討部会

R3は重点目標を設定していない。

#### 4 現状

##### (1) 重点目標達成状況

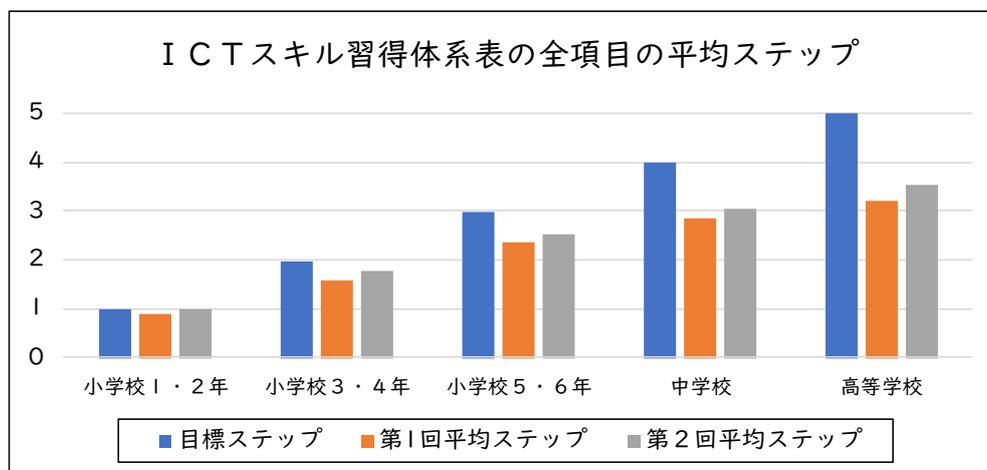
第2回調査結果(2021.2.10) ※第1回調査には本項目なし



- 達成できている
- おおむね達成できている
- ある程度達成できている
- あまり達成できていない

##### (2) ICTスキル習得体系表の全項目に基づく達成状況

ア 平均ステップ 第1回(2021.11.5), 第2回(2022.2.10)



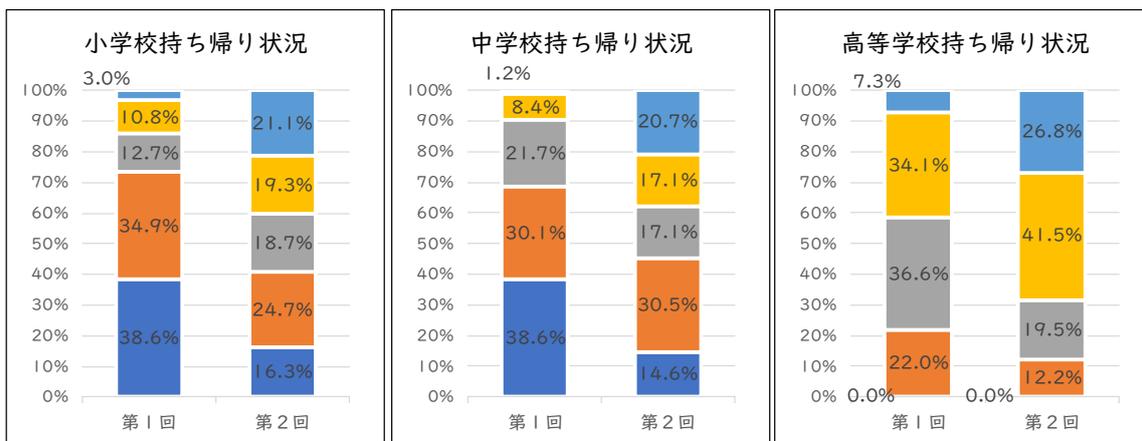
※平均ステップ 全学校・全設問のステップの値の合計 / (設問数・学校数)

##### イ 達成率

	小学校 1・2年	小学校 3・4年	小学校 5・6年	中学校	高等学校
第1回	91.0%	80.0%	78.7%	71.5%	64.4%
第2回	101.0%	90.0%	85.0%	76.5%	70.8%

※達成率 (平均ステップ / 目標ステップ) × 100

(3) 持ち帰りの状況 第1回(2021.11.5), 第2回(2022.2.10)



- 頻繁に持ち帰り家庭で活用している
- 時々持ち帰り家庭で活用している
- 数回持ち帰り家庭で活用している
- 一度は持ち帰ったことがある
- 持ち帰り準備はしているがまだ実施できていない

(4) 活用頻度 第1回(2021.11.5), 第2回(2022.2.10)

ア 活用頻度(全授業のうち1人1台端末を活用した授業の割合)

※ 第1回は9月から, 第2回は, 11月から調査時点までの状況を回答



- 80%以上
- 60%以上80%未満
- 30%以上60%未満
- 30%未満

イ 活用頻度60%以上の割合

	小学校	中学校	高等学校
第1回	24.1%	17.2%	19.9%
第2回	34.4%	30.3%	33.8%

## 5 本年度の状況

- (1) 校種別に課題を焦点化した「重点目標」による推進（重点目標達成率が、小学校35%、中学校21%、高等学校58%）
- (2) 「ICTスキル習得体系表」による小中高一貫した体系的な指導による児童生徒のICTスキル向上（目標となるスキルに向けた達成率が、小学校92%、中学校77%、高等学校71%）
- (3) 「持ち帰り」の推進による学びの連続性の確保（ある程度持ち帰っている割合が、小学校40%、中学校38%、高等学校68%）
- (4) 「サポートサイト」での情報提供・事例共有による活用頻度向上（授業のうち6割以上活用している割合が、小学校34%、中学校30%、高等学校34%）
- (5) 全特別支援学校における「校内ミニ研修」によるアプリでの指導事例の蓄積と教員のスキルアップ（131事例を公開）
- (6) 1人1台端末での不登校児童生徒の学びの支援に関する調査研究の実施と公開（「不登校児童生徒等への支援【活用事例集】」発行）

## 6 本年度の課題

- (1) 各教科・科目等の特性を生かし、その目標にせまる効果的活用を行うことで「学びを充実」させるための、1人1台端末活用についての研究と実践
- (2) 「持ち帰り」による「学びの連続性の全体的確保」のための保護者に対する啓発・情報提供
- (3) 「ICTスキル習得体系表」のより一層の周知と好事例の横展開
- (4) 特別支援学校での障がい種別に応じた機器の活用方法についての研究と実践
- (5) 不登校児童生徒の学びの支援に関する研究成果のより一層の周知
- (6) 持続可能なGIGAスクール構想推進に向けた端末更新計画の策定

## 7 令和4年度の取組予定（案）

### （1）推進目標

#### ○将来を見据えた推進目標

D Xによる学びの充実に向けた効果的活用の推進

#### ○全体重点目標

① 各学校での毎日の活用

#### 【目標設定の意図】

- ・授業，校務，研修等に日常的に活用することでスキルアップを図る。
- ・持ち帰りを推進し，切れ目のない活用を図る。

② 全教員が教科・科目のねらいにせまる効果的活用を行う。

#### 【目標設定の意図】

- ・ICT活用を基盤とする「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」について，全教員が研究を行う。

### （2）各部会重点目標

小学校部会	学びを豊かにするICT活用と情報モラル・セキュリティ教育の充実
中学校部会	1人1台タブレットの効果を生み出す授業改善
高等学校部会	タブレットの日常的な活用による「効果的な学び」を目指した，学校全体での組織的推進
特別支援学校部会	発達段階や障がい種別に応じたタブレットの利活用の充実 ～みんなで「I（いつも）C（ちょっと）T（たのしい）」活用を～
総務部会	持続可能なGIGAスクール構想推進に向けた制度設計の提案
不登校児童生徒の学びの支援検討部会	タブレットの活用による「つながり」の強化 ～「心のサポート」と「学びのサポート」の充実～

(3) 推進スケジュール

月	内容
4月	令和4年度 推進本部・部会 設置・委嘱 第1回推進本部会・各部会 県立学校教育情報ネットワーク担当者会
5月	管理職及び研修主任対象の研修会 G I G Aスクールサポート事業（要請訪問）募集・実施 前期学校計画訪問実施開始（～7月）
6月	E d T e c hモデル校・推進校の公開授業開始
7月	G I G Aスクール実践動画コンテスト募集開始 小教研連絡会，中高特担当者連絡会
8月	G I G Aスクール教科等研究集会 市町村教育委員会担当者との連絡会
9月	後期学校計画訪問実施開始（～12月） 情報モラル教育研修会（中高特） 第1回I C Tスキル習得状況・活用状況等についての調査
10月	第2回推進本部会・各部会
11月	
12月	県立学校G I G A担当者会
1月	第2回I C Tスキル習得状況・活用状況等についての調査
2月	徳島県「教育の情報化」推進フォーラム開催 第3回推進本部会・各部会
3月	次年度準備

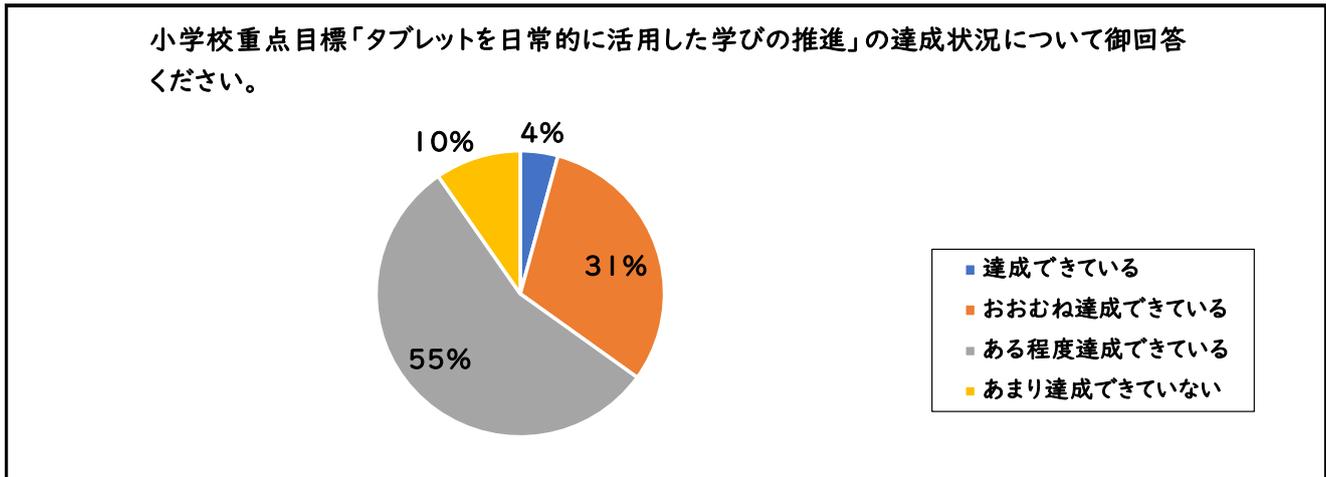
## 小学校部会

### 1 開催状況の概要

- (1) 日時 令和4年2月18日(金) 午前10時30分から正午まで
- (2) 方法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 小学校部会員11名(1名欠席)

### 2 令和3年度小学校重点目標の達成状況

- (1) ICTスキル習得に向けた取組状況の調査結果(小学校)  
(3/1時点 有効回答数166)



「達成できている」(4%)  
「おおむね達成できている」(31%) } 達成率 35%  
「ある程度達成できている」(55%)  
「あまり達成できていない」(10%)

タブレット活用が特別なことではなくなっているが、「達成できている」と回答した割合は4%、「おおむね達成できている」と回答した割合は31%に留まっている。

### (2) 日常的な活用の実現に効果的だった取組

- ア 校内研修の充実
  - ・ G I G A スクールサポート事業
  - ・ 各教育委員会主催の研修
  - ・ 外部講師を招いた研修(大学関係者, ICTに専門的知識のある保護者など)
  - ・ 職員会や自由参加のミニ研修など日常的に情報共有
- イ 積極的活用の推進
  - ・ 定期的に校内研究授業の実施
  - ・ 授業参観での活用を必須
  - ・ 「悩む前に使って覚える」、「とにかくやってみる」、「走りながら考える」、「次への糧とするため、失敗しても構わない」などの学校目標を設定
  - ・ 特定の教科や活動(朝の時間)での活用
  - ・ プログラミング活動の充実

### (3) 日常的な活用の実現に苦勞したことや改善点

- ア 教員の課題
  - ・ 教員の意識改革

- ・教職員のスキル不足
  - ・各教科での効果的な活用
- イ 児童の課題
- ・情報モラル教育の推進やルールづくり
  - ・家庭学習の在り方
- ウ 環境整備での課題
- ・Wi-Fi環境に課題
  - ・端末不具合時の対応
  - ・アプリケーションの充実

### 3 令和3年度端末活用状況について（教員の授業における活用頻度調査結果）

活用頻度	第1回調査結果 (9月～11月)	第2回調査結果 (11月～2月)	前回との 比較
80%以上	16%	19%	+3%
60%以上80%未満	8%	16%	+8%
30%以上60%未満	36%	40%	+4%
30%未満	40%	25%	-15%

- ・7割以上の教員が、実施授業の3割以上「小学校だと一日（6回授業）2回は活用」端末を活用している。
- ・中間調査と比較すると30%未満の活用に留まっている教員の割合が減った。

学校教員の端末活用は順調に広がっているが、苦手意識をもつ一部の教員のサポートが必要である。

### 4 児童のICTスキルの習得状況について

※（ ）の中の数値は第1回調査の達成率 赤枠は達成率60%未満

	分類	低学年「ステップ1」 (第1回調査結果)	中学年「ステップ2」	高学年「ステップ3」
基本 操作	アプリケーション操作	99% (98%)	96% (86%)	85% (71%)
	カメラ機能活用	96% (84%)	90% (79%)	64% (48%)
	文字入力	91% (79%)	89% (73%)	64% (48%)
情報 活用 力	分類整理・まとめる力	75% (61%)	51% (43%)	56% (41%)
	プレゼンテーション力	61% (53%)	67% (45%)	59% (39%)
	情報収集力	65% (60%)	78% (66%)	71% (57%)
	コミュニケーション力 (オンライン)	68% (46%)	46% (33%)	36% (20%)
情	情報社会の倫理	99%	70%	69%

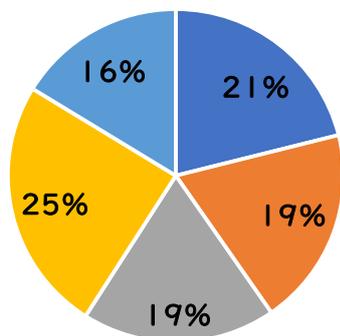
報		(96%)	(55%)	(46%)
モ	情報に関する権利	96%	84%	75%
ラ		(83%)	(68%)	(49%)
ル	危険回避	97%	85%	75%
・		(90%)	(72%)	(48%)
セ	情報の取り扱い	87%	75%	55%
キ		(78%)	(53%)	(24%)
ユ	健康面への配慮	96%	70%	57%
リ		(94%)	(60%)	(34%)
テ	情報セキュリティ	87%	57%	56%
ィ		(80%)	(40%)	(32%)

- ・ 第1回調査結果と比較すると各発達段階児童の全項目の達成割合が向上している。
- ・ 基本的な操作技術の習得が進んでいる。
- ・ 今後は、まとめる力やプレゼンテーション力など活用力を高められるよう授業づくりに取り組む必要がある。
- ・ 情報モラル・セキュリティに関する教育を充実させる必要がある。

教科の学びにおいてICTを活用した授業改善を推進するとともに情報モラル・セキュリティに関する指導スキルを高める必要がある。

## 5 端末の持ち帰り状況について

端末の持ち帰り状況について御回答ください。



- 頻繁に持ち帰り家庭で活用している
- 時々持ち帰り家庭で活用している
- 数回持ち帰り家庭で活用している
- 一度は持ち帰ったことがある
- 持ち帰り準備はしているがまだ実施できていない

「頻繁に持ち帰り家庭で活用している」(21%)  
「時々持ち帰り家庭で活用している」(19%) } 家庭でどのように活用するのか意識

「数回持ち帰り家庭で活用している」(19%)  
「一度は持ち帰ったことがある」(25%)  
「持ち帰り準備はしているがまだ実施できていない」(16%) } 有事の際の活用を意識

「家庭と学校の学びのつながり」を実現している好事例を普及させることで端末持ち帰りへの機運を高める。

## 6 令和4年度小学校部会の推進目標

「学びを豊かにするICT活用と情報モラル・セキュリティ教育の充実」

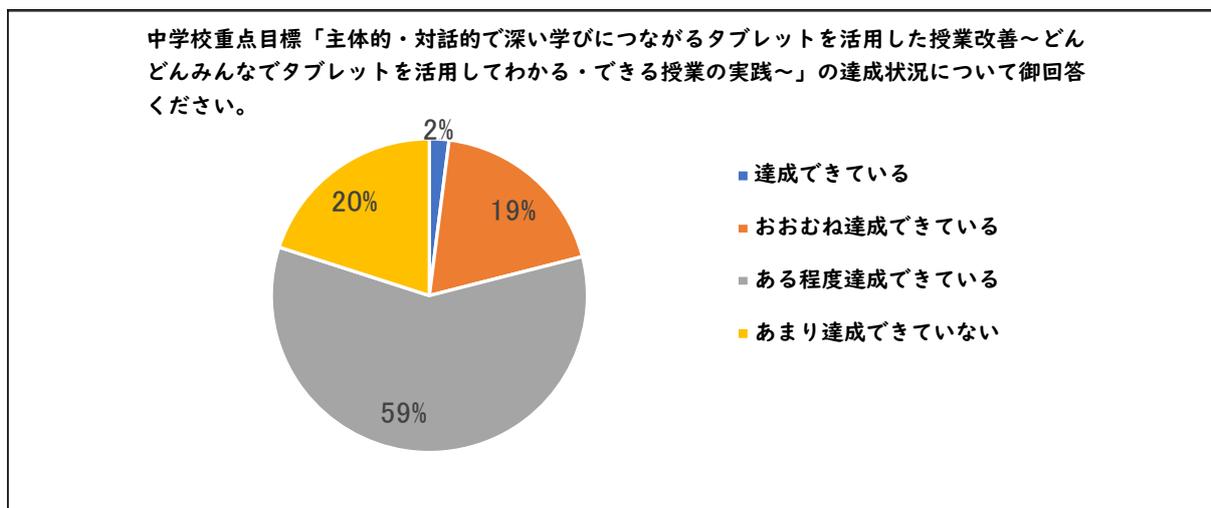
## 中学校部会

### 1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和4年2月16日(水) 午前10時から午前11時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 中学校部会員11名(全員出席)

### 2 令和3年度中学校重点目標の達成状況

- (1) ICTスキル習得に向けた取組状況の調査結果(中学校)より  
(3/1時点 有効回答数83/83)



- 「達成できている」(2%)
  - 「おおむね達成できている」(19%)
  - 「ある程度達成できている」(58%)
  - 「あまり達成できていない」(20%)
- } 21%が目標を達成

大部分の学校において意識づけはできているものの、今後は継続した取組につ  
なげていく必要がある。

### (2) 日常的な活用の実現に効果的だった取組

#### ア 校内研修の充実

- ・ G I G A スクールサポート事業
- ・ 各教育委員会主催の研修
- ・ 外部講師を招いた研修  
(大学関係者, ICTに関わる会社, 地域の専門的な知識を有する方)
- ・ 職員会や自由参加のミニ研修など日常的に情報共有  
(職員会後の30分の研修, メンター制, 小グループ制, ワークショップ  
形式, 希望研修制など校内の実情に合わせた研修等)
- ・ 「徳島GIGAスクールサポートサイト」の実践事例を活用

#### イ 積極的活用の推進

- ・ 定期的に校内研究授業の実施(全ての教員が参加できるような取組)

- ・ Teamsなどの活用が増加（リモート会議・授業での活用・健康観察等・持ち帰り）
- ・ 特定の教科における活用方法を全職員で理解する研修
- ・ 家庭学習に生かせる「学びポケット」・「Forms」・「スマイルネクスト」等の学習ソフトの研修機会

(3) 日常的な活用の実現に苦労したことや改善点

ア 教員の課題

- ・ 教科間・教師間でのICT活用の意識の差(教員の意識改革)
- ・ 教職員のスキル不足

イ 生徒の課題

- ・ 家庭学習の在り方
- ・ 情報モラル・セキュリティの知識の未熟さ

ウ 環境整備での課題

- ・ Wi-Fi環境に課題
- ・ 端末不具合時のトラブル対応

3 令和3年度端末活用状況について（各教科における活用頻度調査結果）

分類	第1回調査結果 (~11月)	第2回調査結果2月 (~2月)	前回との比較
国語	47%	57%	+10%
社会	51%	66%	+15%
数学	39%	51%	+12%
理科	48%	60%	+12%
音楽	39%	49%	+10%
美術	29%	53%	+24%
保健体育	21%	37%	+16%
技術	54%	76%	+22%
家庭	36%	54%	+18%
外国語	51%	72%	+21%
道徳	27%	41%	+14%
総合的な学習の時間	77%	87%	+10%
特別活動	50%	67%	+17%

※表の数値 各授業で3割以上の活用を合計したもの

- ・ 全ての授業において、1回目の調査より活用状況の増加が見られた。
- ・ 社会、理科、技術、外国語、総合学習の時間、特別活動などでの活用が多い。
- ・ 中間調査と比較すると30%未満の活用に留まっている教員の割合が減ってはいるが、現在でも約4割程度存在している。

全教科での活用は広がりつつあるが、一方で教科間の格差もあり、今後は教科の枠を超えて情報共有することや、各教科で研修をもつ機会が必要である。

#### 4 生徒のICTスキルの習得状況について

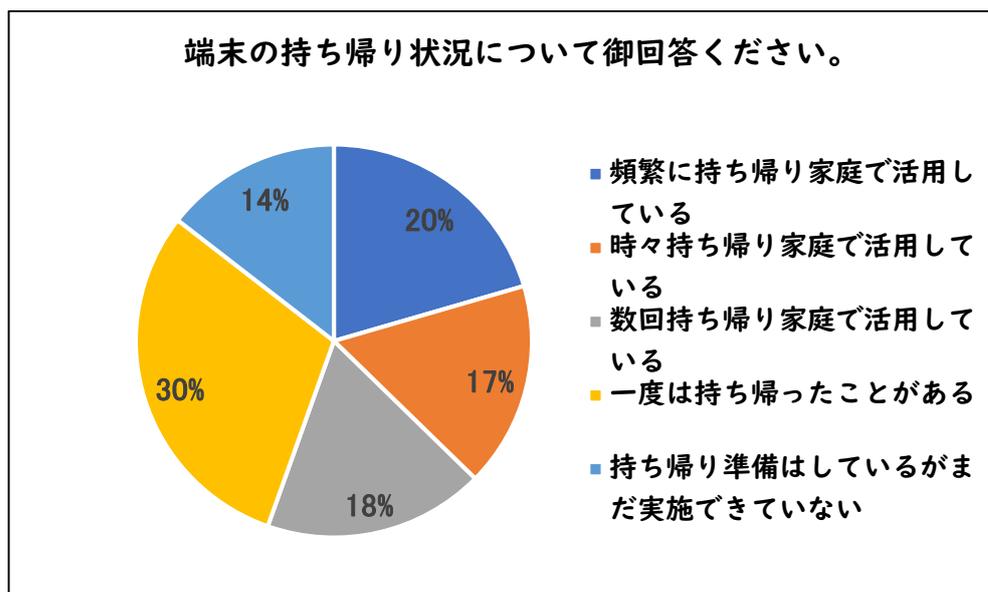
	分類	第1回調査結果 (～11月)	第2回調査結果 (～2月)	前回との比較
基本 操作	アプリケーション操作	25%	40%	+15%
	カメラ機能活用	16%	19%	+3%
	文字入力	29%	37%	+8%
情報 活用 力	分類整理・まとめる力	6%	11%	+5%
	プレゼンテーション力	18%	21%	+3%
	情報収集力	23%	33%	+10%
	コミュニケーション力	14%	25%	+11%
情報 モラ ル・ セキ ュリ ティ	情報社会の倫理	37%	49%	+12%
	情報に関する権利	32%	43%	+11%
	危険回避	39%	54%	+15%
	情報の取り扱い	31%	43%	+12%
	健康面への配慮	26%	42%	+16%
	情報セキュリティ	27%	29%	+2%

※表の数値 ステップ4までの達成状況を合計したもの

- ・中間調査と比較すると、全項目の達成割合が向上している。
- ・基本操作では、カメラ機能活用の習得状況が低いですが、各教科での活用方法を工夫し、機会を増やすことでステップ4の習得活用が増えていくと考えられる。
- ・情報活用能力では、分類整理・まとめる力やプレゼンテーション力が低い。
- ・情報モラル・セキュリティも全ての項目において一定の理解はされているものの、健康被害やセキュリティへの関心が低い。

全体としては上がっているものの、達成率は低い。また、中学校における情報モラル・セキュリティなどは大きな課題である。

## 5 端末の持ち帰り状況について



「頻繁に持ち帰り家庭で活用している」(20%) } 家庭でどのように活用  
「時々持ち帰り家庭で活用している」(17%) } するのかを意識

「数回持ち帰り家庭で活用している」(18%) }  
「一度は持ち帰ったことがある」(30%) } 有事の際の活用  
「持ち帰り準備はしているがまだ実施できていない」(14%) } を意識

持ち帰りの学校は増えているが、日常的な持ち帰りを推進していくためには、  
学校の実情に合わせた情報モラル・セキュリティ面の強化や家庭での効果的な活  
用等を増やしていく必要がある。

## 6 令和4年度中学校部会の推進目標

1人1台タブレットの効果を生み出す授業改善

## 高等学校部会

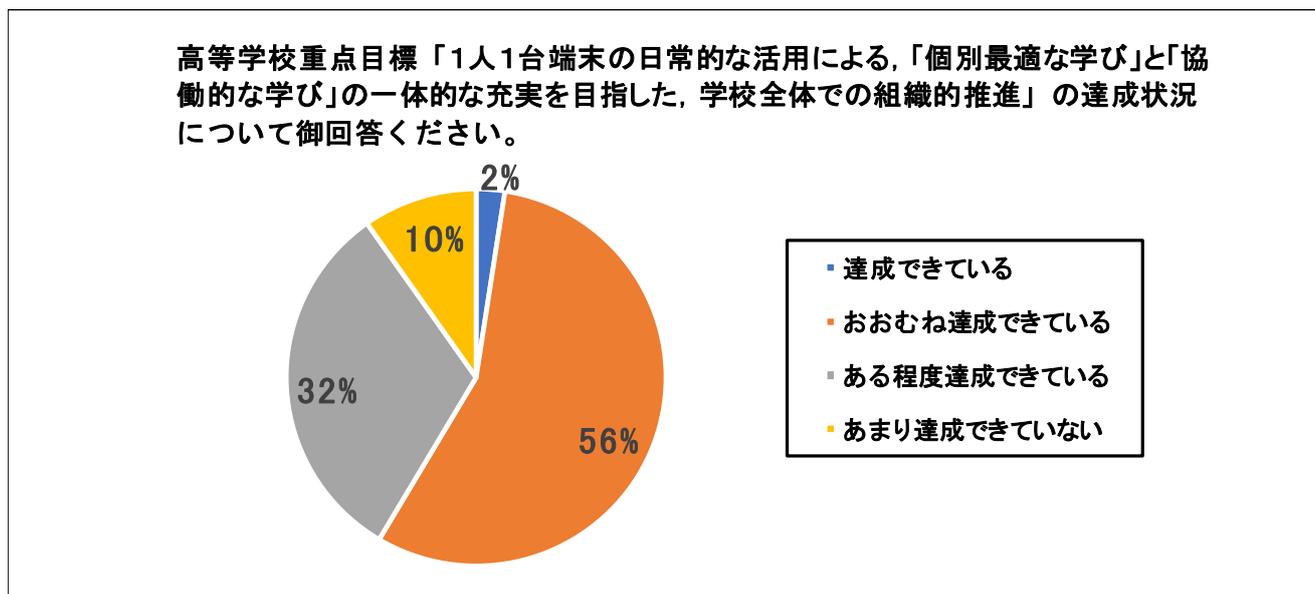
### 1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和4年2月17日(木) 午前10時から午前11時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 高等学校部会員6名(2名欠席)

### 2 令和3年度高等学校重点目標の達成状況

- (1) ICTスキル習得に向けた取組状況の調査結果(高等学校)

(3/1時点 有効回答数41/41)



「達成できている」(2%)

「おおむね達成できている」(56%)

「ある程度達成できている」(32%)

「あまり達成できていない」(10%)

達成率 58%

高等学校では、「学校全体での組織的推進」がある程度なされている。

- ・ 様々な問題はあるが、学校全体としては組織的に推進されているという手応えを感じている学校が6割ほどある。残りの4割の推進方法が課題である。

- (2) 重点目標達成に向けて工夫したことや効果があった取組

#### ア 校内研修の充実

- ・ GIGAスクールサポート事業の利用
- ・ 校内研修会の実施後、スキルの高い教員主導で再研修を実施
- ・ 外部講師(GIGAスクールサポーター等)を招いた研修
- ・ 職員会や自由参加の研修など日常的に情報共有できるようにしている。

イ 教員全体で関わる取組

- ・ClassiやFormsを使った生徒アンケートの実施
- ・教科主任主導で、教科の小テストをクラウドサービスで実施
- ・保護者説明会・公開授業等をZoomで配信
- ・相互授業参観で端末の活用法を研究
- ・ICTが苦手な教員に対する校内のサポート体制の充実

(3) 重点目標達成に向けて苦勞したことや改善点

ア 教員の課題

- ・情報担当者など特定の教員の負担増
- ・ICT機器操作のスキル不足
- ・教員の意識改革（必要性の理解・温度差の解消）

イ 生徒の課題

- ・情報モラル教育の推進やルールづくり
- ・端末操作のスキル不足
- ・端末自体の取扱い

ウ 環境整備での課題

- ・Wi-Fi環境に課題
- ・端末不具合時の対応
- ・アプリケーションの充実

3 令和3年度端末活用状況について（教員の授業における活用頻度調査結果）

教科	第1回	第2回	前回との差
①普通教科「国語」	41%	61%	+20%
②普通教科「地歴」	51%	63%	+12%
③普通教科「公民」	44%	61%	+17%
④普通教科「数学」	56%	61%	+5%
⑤普通教科「理科」	44%	68%	+24%
⑥普通教科「保健体育」	32%	59%	+27%
⑦普通教科「芸術」	24%	32%	+7%
⑧普通教科「外国語」	59%	71%	+12%
⑨普通教科「家庭」	44%	59%	+15%
⑩普通教科「情報」	63%	71%	+7%
①専門教科「農業」	14%	38%	+23%
②専門教科「工業」	67%	33%	-33%
③専門教科「商業」	50%	54%	+4%
④専門教科「水産」	50%	50%	0%
⑤専門教科「家庭」	30%	45%	+15%
⑥専門教科「看護」	67%	100%	+33%

⑦専門教科「情報」	29%	75%	+46%
⑧専門教科「福祉」	43%	50%	+7%
⑨専門教科「理数」	33%	25%	-8%
⑩専門教科「体育」	40%	29%	-11%
⑪専門教科「音楽」	0%	40%	+40%
⑫専門教科「美術」	25%	60%	+35%
⑬専門教科「英語」	0%	100%	+100%
「特別活動」	37%	56%	+20%
「その他」	51%	71%	+20%

- ・普通教科に関しては全ての教科で活用頻度が上がっている。
- ・活用頻度が上がっている教科での活用方法の事例を，校内で他の教科に情報共有できるしくみを考える必要がある。

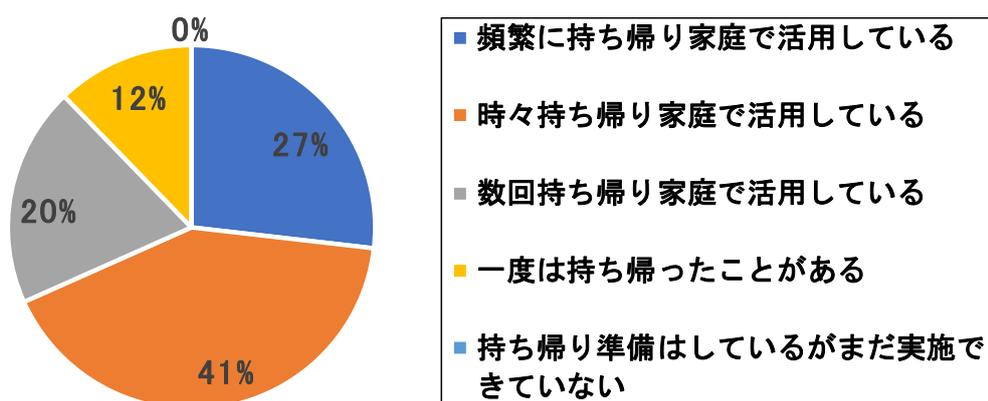
#### 4 生徒のICTスキルの習得状況について

	第1回	第2回	前回との差
①アプリケーション操作	22%	24%	+2%
②カメラ機能活用	10%	17%	+7%
③文字入力	15%	27%	+12%
④分類整理・まとめる力	10%	12%	+2%
⑤プレゼンテーション力	24%	34%	+10%
⑥情報収集力	24%	37%	+12%
⑦コミュニケーション力	20%	27%	+7%
⑧情報社会の倫理	12%	15%	+2%
⑨情報に関する権利	20%	24%	+5%
⑩危険回避	17%	20%	+2%
⑪情報の取り扱い	15%	22%	+7%
⑫健康面への配慮	20%	22%	+2%
⑬情報セキュリティ	15%	12%	-2%

- ・ほぼ全ての項目で達成割合が上昇している。
- ・スマートフォンの普及によりキーボード入力のスキルは高くなかったが，1人1台端末を活用することにより，スキルが向上している。
- ・プレゼンテーション力，情報収集力において大きく向上している。総合的な探究の時間での研究活動等で効果的に活用していることが窺える。
- ・他校種に比べると達成率が低いが，高等学校の達成目標（ステップ5）が高いレベルを設定しているためであると考えられる。

## 5 端末の持ち帰り状況について

端末の持ち帰り状況について御回答ください。



「頻繁に持ち帰り家庭で活用している」(26%)  
「時々持ち帰り家庭で活用している」(41%)  
「数回持ち帰り家庭で活用している」(20%)  
「一度は持ち帰ったことがある」(12%)  
「持ち帰り準備はしているがまだ実施できていない」(0%)

} 家庭で有効に活用できている

- ・持ち帰っての活用は進んでいると言える。コロナ禍において、端末を持ち帰ることで学びを途切れさせることなく、学習を継続できたのは大きな成果である。
- ・持ち帰りの頻度が高まるのに比例して、端末の破損、不具合等が増えている。今後はクラウドサービスをうまく使い、家庭学習にも取り入れる工夫をするべきである。

## 6 令和4年度高等学校部会の推進目標

タブレットの日常的な活用による「効果的な学び」を目指した、学校全体での組織的推進

## 報告 4

### 特別支援学校部会

#### 1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和4年2月18日(金)午後3時30分から午後4時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 特別支援学校部会員4名(2名欠席)

#### 2 校内ミニ研修報告書について

※徳島県GIGAスクールサポートサイトで公開(掲載数:131事例)

##### 【活用事例の多いアプリケーション】

アプリケーション名	主な活用場面
ZOOM Cloud Meetings	情報保障・連絡手段・リモート学習
Microsoft PowerPoint	教材提示・事前学習・視覚支援
Keynote	視覚支援・手順書づくり・発表
iMovie	動画撮影・モデリング動画作成
Microsoft Teams	連絡手段・リモート学習
MetaMoJi Classroom	授業中の児童生徒同士での情報共有

##### 【障がい種別ごと利用頻度の多いアプリケーション】

障がい種別	主な活用アプリケーション
視覚障がい	UDブラウザ・のじぎくシンプルデিজィプレイヤー等
聴覚障がい	UDトーク, Microsoft PowerPoint, MetaMoJi Classroom
知的障がい	Keynote, Microsoft PowerPoint, ごじゅーおん等
病弱・身体虚弱	ZOOM Cloud Meetings, iMovie, Keynote等
肢体不自由	アイビスペイントX, NHKforSchool, 計算機+式が見える電卓等
重複障がい	タッチ!あそべビー, とびだす動物タッチ等

#### (2) 報告書例

##### ア えこみゅ 〈知的障がい〉

- ・発語が難しい生徒とコミュニケーションがとれ、あいさつや報告、援助要求などができる。イラストがあり視覚的に分かりやすい。
- ・活用する場面を設定し、はじめは操作の練習などを行った。

イ アイビスペイントX〈病弱・身体虚弱〉

- ・指や入力装置など、生徒の実態に合わせた方法でイラストを描くことができる。
- ・生徒の実態にあった機能を使って年賀状のイラストやポスターのデザイン、できあがったデザインを3Dプリンターで立体化するなど様々な作品を作ることができた。

ウ 絵カードタイマー〈肢体不自由〉

- ・時間が減っていく様子が視覚的にわかりやすい。また、何の作業をしているのかも画像と文字により視覚的にわかりやすく示される。
- ・何の活動（機織り作業、運動など）をしているのかを示すため、活用の写真を掲載して活用した。

3 端末の持ち帰りが、保護者との情報共有や共通理解につながった事例

- 学校でできるようになったことを家庭でも般化させることを目的として、教員自作教材やモデリング動画を作成して、端末で撮影し、持ち帰りをしている。
- 重度自閉症の生徒が授業等で頑張っている様子を撮影し、教員がコメントをつけて持ち帰らせることで、指導の共有化が図られ、保護者からも好評であった。
- 「デジタル連絡帳」により、保護者に本人の様子が情報共有できた。

4 各校での課題と改善に向けた取組について ～各校からの意見～

(1) GIGAスクール構想を推進する上での課題について

①情報セキュリティに関する課題について

- 授業の様子の写真・動画について、対面ではある程度の注意ができるが、遠隔授業の場合、無断での撮影、SNS等での共有の心配がある。
- 個人情報保護の観点から、学習場面で撮影した写真や動画、その他学習に使用したデータの意図せぬ利用について注意が必要である。

②オンライン学習を実施する上での課題

- 小学部では、オンライン・オンタイムでの配信が授業の構成上難しい。児童の発達段階として1対1の対面で反応を見ながら課題提示し、授業を進めているため。
- ドロップトークアプリを活用したいという要望が非常に多い。  
※Drop Tapは有償だがGIGAスクール端末への無償提供されている。

③端末の故障や破損の際の取り決め等の課題

- 経済的な理由で、破損した場合に、弁償ができないので、保護者が持ち帰りを遠慮する事例が相当数ある。
- 次年度以降も引き続き、端末破損時の補償について、不安を感じている保護者が多い。

④教員の負担感について

- GIGAスクール構想による1人1台端末使用に関する事務負担感が非常に大きい。端末管理、サーバ管理、OS・アプリ管理、ホームページ管理、教員研修支援、授業支援、準備支援、教材開発など、学校事情に応じてGIGAスクールサポーターを最大限活用しているため、多くの学校から次年度以降も配置してほしい旨の要望が多い。

(2) 改善に向けた県教委の具体的取組について

①情報セキュリティに関する具体的取組について

○個人情報保護等においては、保護者との共通理解を図り、児童生徒へ情報モラル教育の徹底を図る必要がある。

○持ち帰り時の写真消去の現場の負担軽減のため、各学校の好事例（学校ごとのルール等）を収集し、共有する。

②オンライン学習の実施に関する具体的な取組

○小学部の授業配信に関して、放課後に撮影する、授業者以外に撮影者を補教等で対応する等の工夫が必要である。

○ドロップトークアプリなど学校現場が必要としているオンライン学習に使用できるアプリケーションの導入を進める。

5 令和4年度の重点目標について

(1) 目標について

令和4年度 重点目標(案)

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの利活用の充実

～みんなで「I(いつも)C(ちょっと)T(たのしい)」活用を～

(2) 令和4年度の具体的取組案

○情報モラル教育の充実

○特別支援学校間の情報共有を図り、円滑なオンライン学習実施に向けた指導体制を推進

○教育効果の高いアプリやオンライン配信の好事例を収集し、横展開

## 徳島県GIGAスクール構想

# 不登校児童生徒等への支援【活用事例集】(案)

### \* ICT環境の活用目的 \*

- ①従来からの不登校児童生徒等への支援のさらなる充実
- ②学校とのつながりの強化
- ③学習意欲の維持・向上

社会的自立

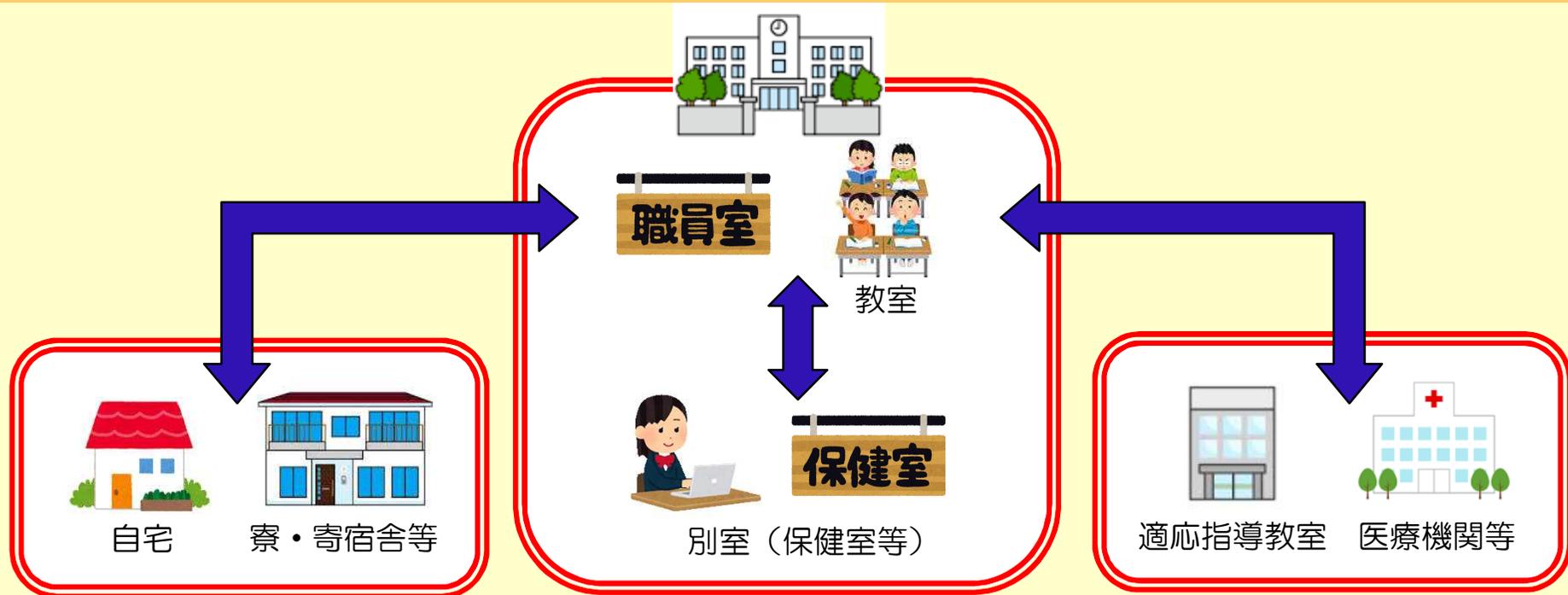
※10月に、県内の全公立学校を対象に行ったアンケート結果とEdTech活用推進事業Ⅱの実践校の取組から、好事例としてまとめたものです。取組は始まったばかりの学校も多いようです。また、校種も様々ですが、今後のそれぞれの学校での不登校児童生徒等への支援のヒントになれば幸いです。

【参照】「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（文部科学省 令和元年10月25日）



徳島県GIGAスクール構想推進本部  
不登校児童生徒の学びの支援検討部会

# GIGAスクール構想（不登校児童生徒等への支援）



## 心のサポート

A コミュニケーションツールとしての活用



B 健康管理ツールとしての活用



## 学びのサポート

D Webドリル教材等の活用



C 教室の様子等の配信



## 【心のサポート】

### A コミュニケーションツールとしての活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会への参加。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝起きることができない日や参加できない日が多いが、提案に対しては嫌がってはいない。</li> <li>参加を強要せず、気軽に参加を促す。</li> <li>毎日継続することで、心の拠り所の一つになると思う。</li> </ul>	<p>Q1 徳島県GIGAスクール構想「不登校児童生徒の学びの支援検討部会」の、ICT活用に対する考え方は？ ↓</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの不登校児童生徒の支援の延長線上に、ICT活用がある、という考え方が必要です。</li> <li>ICTは、あくまで一つのツール（道具・手段）です。ICT活用で、子どもたちを引っ張り上げるのではなく、一歩目の段差を小さくすることができるもの、と捉えましょう。</li> <li>便利でないと、続きません。「<u>持続可能な支援</u>」になるような方法で活用していきましょう。</li> </ul> <p>①できることからやってみる。 ②一人で抱え込まない。 ③他の先生方との<u>情報の共有</u>、<u>成功例を学校全体で蓄積</u>。 ④日常的なICTの活用機会を増やすことで、活用のハードルを下げる。 etc</p>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会、帰りの会へ参加。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該生徒の背と同じくらいの高さに調整したスタンドにタブレットを装着し、いつもの立ち位置に設置。</li> <li>始業前から設置し、級友とコミュニケーションを図る時間を設けている。</li> <li>教室移動時は、生徒が声をかけながらスタンドを運ぶ。</li> </ul>	
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と朝の挨拶や会話などのやりとり。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム *コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話と違い、顔を見てのやりとりで、当該児童の様子が伝わりやすい。</li> <li>職員室でつないでいると、当該児童に関係している先生方もタイミングが合えば顔を出してくれるので、児童も色々な先生が自分のことを気にかけてくれていると感じている。</li> <li>当該児童の様子を画面越しでも見られるので、他の教員とも情報共有しやすい。</li> </ul>	

\* …それぞれの学校で活用したツール（具体的なツール名は9ページに掲載）

【 】 …それぞれの学校で活用した場所。【自宅】【別室】【保健室】【適応指導教室】【各教室】

【A】 コミュニケーションツールとしての活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日1回のメッセージのやりとり。(時間割の確認や取り組んだ課題の確認等)【自宅】</li> </ul> <p>*コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校へ気持ちが向かない時でも、タブレットでなら話ができる。</li> <li>毎日つながっているため、級友とも会話ができ楽しそう。</li> </ul>	<p>Q2 児童生徒本人や保護者が、積極的な支援を望んでいる場合とそうではない場合があるのでは？</p> <p style="text-align: center;">⇓</p>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事(始業式や終業式)、学級の生徒との交流等。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安傾向の強い生徒のため、自宅という安心できる空間で級友と関わることは、大変有効である。</li> <li>生徒の生き生きとした姿を見て、保護者も喜んでいる。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まずは、児童生徒や保護者の意思確認が必須です。</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業式の校長先生のお話や文化祭、キャリア教育出前授業などをライブ配信。【適応指導教室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該生徒からは、楽しかったという感想を聞くことができた。また、他の生徒たちと一緒に参加できたという達成感も感じられた。</li> <li>他の生徒に会うことが苦手な生徒にとっては、有効な手段だと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人の状況によっては、ICTを活用した支援が有効な場合とそうでない場合があります。まずは、児童生徒一人一人について、しっかりとした<u>アセスメント</u>(見立て)が必要です。</li> </ul> <p>※アセスメント… 当該児童生徒の情報の収集・分析を行い、児童生徒の状況を把握すること。</p>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業時刻から下校まで、教室の様子を配信。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>級友が、画面の向こうにいる当該児童に話しかけたり、できた作品を見せたりして積極的に関わろうとしている。</li> <li>当該児童のカメラやマイクはOFFにしているため、一方向の配信であるが、当該児童は、毎日の配信を楽しみにしている。</li> <li>級友たちも、配信が当たり前の日常になっており、気軽に挨拶をしたり話しかけたりしている。</li> <li>心のエネルギーが上がってきており、「学校」に少しずつ興味を持ち始めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場合によっては、スクールカウンセラーを含めた<u>ケース会議</u>を開くことも有効です。</li> <li>支援の開始時期やその内容について、積極的な情報の収集と分析が必要だ、と回答してくれた学校もありました。</li> </ul> <p>・「段階別 不登校対応ハンドブック(改訂版)」を参考にしてください。</p> <div style="text-align: right;">  </div>

【A】 コミュニケーションツールとしての活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭の生中継や学級旗紹介・パフォーマンスのオンデマンド配信。【適応指導教室】</li> </ul> *Web会議システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭の様子を見られて大変好評だった。</li> </ul>	<p>Q3 毎日、接続する必要がある？ ↓</p> <p>A  <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の状態によりますが、家庭訪問とうまく組み合わせることで、より支援の幅が広がります。</li> <li>週1回程度の頻度でやりとりをしている学校もあります。</li> </ul> </p> <p>Q4 顔出しを嫌がる児童生徒に対しては？ ↓</p> <p>A  <ul style="list-style-type: none"> <li>本人の希望で、<u>カメラOFFでも良い</u>と思います。</li> <li>当該児童生徒の状態に合わせる必要があります。</li> <li>カメラOFFでも、直接話ができること、つながることが大切です。</li> <li>不登校の児童生徒にとっては、顔を出さないことで、ハードルが下がります。</li> </ul> </p>
⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観や進学説明会を配信。【自宅】</li> </ul> *Web会議システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>常にカメラとマイクはOFFで、様子は分からなかったが、積極的に活用していると保護者から聞いている。</li> </ul>	
⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へのお知らせ（遠足等）の配信。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>級友と同じ日に届けることができる。</li> </ul>	
⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間割等の予定を配信。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間の<u>見通しを立てる</u>ことができる。</li> </ul>	
⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日のスケジュールを記入・送信。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日1日の生活を振り返り、記入する。</li> <li>自分の生活を管理することができる。</li> <li>担任とのやりとりを通して、生活リズムを整えることができる。</li> </ul>	
⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での様子を写真とコメントで報告。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での生活の様子が伝わる。</li> <li>会話のきっかけになる。</li> <li>学級とつながる手段の一つとして使えることに希望をもっている。</li> </ul>	
⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活記録を記入・提出。【自宅】</li> </ul> *コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任とのやりとりを通して、生活リズムを整えることができる。</li> </ul>	

㊦ 健康管理ツールとしての活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝起きられるよう、児童用タブレット端末のアラームを設定。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムを整えることができる。</li> </ul>	Q5 家庭訪問の方が、メリットがあるのでは？ ↓
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ通話で児童の状況や様子を確認。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童本人と直接コミュニケーションをとることができるので、当該児童の言いたいことや気持ちが教員に伝わりやすい。</li> <li>時間や手間をかけずにスピード感をもって次の対応につなぐことができる。</li> <li>心身の状態の把握などができる。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問することには、大きなメリットがありますが、行くことができない日もあります。そういう時にタブレットを活用する、という活用の仕方もあります。</li> <li><u>家庭訪問とタブレットを組み合わせることで、支援できることが増えます。</u></li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は登校後、健康調査票に体温や健康状態についてタブレットで入力・送信。【各教室】</li> <li>不登校等で欠席している生徒も、自宅からデータを入力・送信。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツールのアンケート機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、健康調査が送信されており、家庭でも早起きをして健康的な生活を送ることができている。</li> <li>不安なことや心配なことなどの書き込みがあれば、担任・養護教諭等がすぐに連携しながら対応できる。</li> <li>場合によっては、スクールカウンセラーと連携して対応にあたることことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該児童生徒の状況によっては、タブレット越しという距離感の方が負担感が少ないと感じる場合もあります。</li> </ul> Q6 児童生徒だけでは接続できない（保護者不在時等）場合は？ ↓
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、体調確認票の記入・送信。【自宅】</li> </ul> ＊コミュニケーションツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の合間に確認できるので、空き時間での対応ができる。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問時等に、接続の仕方を説明する時間を作ってみましょう。それでも難しい場合は、無理せず、接続できる時（保護者の支援が得られる時等）に接続することから始めましょう。</li> </ul>

## 【学びのサポート】

### ㉓ 教室の様子等の配信

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級とつないで授業を実施。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートを取ったり，チャットやスタンプなどで担任の問いかけに反応したりしている。</li> <li>当該児童は，積極的に授業に参加。</li> <li>級友らも一緒に授業を受けられることを喜んでいる。</li> <li>休み時間には，級友がホスト端末の近くに集まり，コミュニケーションを図っている。</li> </ul>	<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心身の状態や不登校の状況等によって，タブレット端末を利用しにくい場合もある？</li> <li>不登校の初期段階では，タブレットでの家庭学習に満足して登校しなくても大丈夫だと思うのでは？</li> </ul> <p style="text-align: center;">⇩</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童生徒の状況に合わせて，利用の仕方を変更する必要があります。</li> <li>まずは，当該児童について，しっかりとした<u>アセスメント</u>（見立て）が必要です。</li> </ul> <p>※アセスメント… 当該児童生徒の情報の収集・分析を行い，児童生徒の状況を把握すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場合によっては，スクールカウンセラーを含めた<u>ケース会議</u>を開きましょう。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級とつないで授業を配信。</li> <li>黒板が映るように固定カメラ(タブレット)を設定し，1日中配信。(昼食時は切る。)</li> <li>学習支援システムを活用し，板書内容やプリント等の配信。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム *学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の授業で，Web会議システムを日常的に使用することで，欠席者が家庭や別室で授業に参加しても，生徒たちは違和感なく授業を受けることができる。</li> <li>教室にいる生徒も全員Web会議システムに接続することで，グループ討議も可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「段階別 不登校対応ハンドブック（改訂版）」を参考にしてください。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級とつないで授業を実施。</li> <li>他の教員が当該児童と同じ部屋でサポートを行う。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポートがあることでストレスが減り，登校できるようになってきた。</li> <li>本人，保護者ともにとっても良い反応。</li> <li>様々な研修会や講習会で，この事例の紹介をしている。</li> </ul>	

□ 教室の様子等の配信

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学級とつなぎ、授業を実施。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段顔を合わせない級友と一緒に授業を受けることができ、楽しそうに授業に参加できた。</li> <li>• 級友が、別室を訪れたり、数回だが、実際に教室に入って級友と一緒に授業を受けたりすることができた。</li> </ul>	<p>Q2 黒板に書いてある文字が見にくいと言われることへの対応は？</p> <p style="text-align: center;">⇩</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業の様子、板書の内容について、Web会議システムでの配信と学習支援システムでの授業内容の配信を組み合わせることで、黒板の見えにくさは解消します。</li> <li>• 板書内容については、毎時間の板書を撮影し、コミュニケーションツールにアップし、児童生徒自身が自由に見ることができるようにしている学校もあります。</li> <li>• 板書の撮影等を、教科担当の児童生徒が担うことで、<u>教員の負担軽減</u>や<u>児童生徒の自己有用感</u>にもつながっているケースもあります。</li> <li>• きれいな映像を配信することを気にしすぎないようにしましょう。(自宅での学習が快適になりすぎないことが、登校につながることもあります。)</li> <li>• 学級の雰囲気を感じてもらうことが目的であれば、当該児童生徒の座席にタブレット端末を置き、自分の席で黒板を見ている状態に近づける、ということも考えられます。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リモートでの授業参加。</li> <li>• 児童側のカメラとマイクはOFFにし、支援者がチャットで関わる。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム *学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「教室で授業を受けてもついていける、分かる」素地を培うことができています。</li> <li>• 徐々に力と自信をつけて、教室で他の児童と一緒に活動する時間が増加。</li> <li>• 授業を受けるだけでなく、学級の雰囲気も味わわせるように配慮する。</li> </ul>	
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保健室から授業の様子が見られるようにし、保健室登校の児童が授業に参加。【保健室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業に参加でき、学級の様子がわかるので、児童に安心感が生まれたようだった。</li> </ul>	
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 別室に登校している生徒に対し、数学担当がタブレット端末を使って個別に授業をしている。【別室】</li> </ul> <p>*Web会議システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数学では、関数や図形など移動するものは活用しやすい。また、ポイントのところを拡大できるので、要点を絞りやすい。</li> </ul>	
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 板書を写真に撮って保存。いつでも見ることができるようになっている。【自宅】</li> </ul> <p>*学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 欠席中に遅れている部分を知ること、取り戻しができることと安心感を与えている。</li> </ul>	

㉒ 教室の様子等の配信

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の動画や使用したスライド資料等を配信。【自宅】</li> </ul> <p>*学習支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業以外での、学習面の支援があることに当該生徒も保護者も感謝していた。</li> </ul>	<p>Q3 プラスαの教材づくりは負担が大きい？ ↓</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>共有フォルダの作成</u>、ICTを活用した教材等を一元管理することで、教員の負担軽減を図っている学校もあります。</li> <li>まずは、配信する教科を絞ったり、1週間の中で日数を絞ったりしている学校もあります。</li> <li>放課後等に個別指導をする場合も、曜日を限定したり、1回の時間を30分～1時間程度に抑えている学校もあります。</li> </ul>
㉒	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の板書の写真をアップし、日付ごとに分けて保存。</li> <li>板書の写真をノートに書いたり、問題集の当該ページを解いたりして、自分なりに教科書を進め、登校できたときにチェック。【自宅】</li> </ul> <p>*コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間分の板書の写真を撮影し、ファイル名を変更し、コミュニケーションツールにアップするという作業に時間が取られ、忘れることも多かった。</li> <li>現在は教科の担当児童が撮影からアップまでできるようになったため負担は軽減できた。</li> </ul>	<p>Q4 級友の肖像権の問題は？ ↓</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、タブレットを教室の前の方に置き、黒板と授業者だけが映るように設定します。（他の児童生徒が映らないように設定。）</li> </ul>
㉓	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の様子を録画し、後で視聴できるように<u>オンデマンド配信</u>。【自宅】</li> </ul> <p>*Web会議システム *コミュニケーションツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝から起きられない生徒でも、体調が良い時等に視聴できた。</li> <li>コミュニケーションツールを活用し、パスワードをかけてアップする。</li> </ul>	

※オンデマンド配信の場合は、著作権に十分注意してください！！

※オンデマンド配信・・・ライブ配信の録画やあらかじめ制作した動画を配信サーバーにアップロードし、視聴者の好きなタイミングで見られるように配信すること。

## □ Webドリル教材等の活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【自宅】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>基礎・基本の定着</u>。</li> <li>ドリルの進み具合をタブレットで確認することで、児童の状況を把握している。</li> <li>タブレットを利用したドリル学習には、積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>Q5 Webドリル教材では、問題が解けているかのチェックや苦手分野の把握などができないのでは？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>A Webドリル教材では、児童生徒の実態に応じて課題を設定できたり、進捗状況を教員側が確認する機能があったりするので、使い次第で、児童生徒のつまずきのフォローアップにつながります。</p>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【自宅】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末の使用について当該児童と話すことが多くなり、コミュニケーションが増えた。</li> <li>学校のことや学習のことについて話すきっかけとなり、当該児童も保護者も喜んでいる。</li> </ul>	<p>Q6 ICTを活用することで、ICTに頼りすぎて学校との心の距離が離れないようにするには？</p> <p>・「このままリモートでいい」と思われたい手立ては？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>A 「ICTを活用しながら、担任が定期的に家庭訪問して、生活や学習状況を確認するとともに、スクールカウンセラーと連携して、社会的な自立を目指したきめ細やかな支援ができるよう努めています。」と回答してくれた学校がありました。</p>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【別室】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリル学習は、紙と鉛筆を使うよりも答えやすく、学習をすることへの抵抗が軽減された。</li> <li>当該児童の好きな活動を取り入れることで、少しでも登校のきっかけになれば、と考えている。</li> </ul>	
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援アプリを活用した、継続的な学びの支援。【自宅】【適応指導教室】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを貸与し、個に応じた学習を不登校生徒に提供できることは、<u>教職員</u>の大きな負担軽減となっている。</li> </ul>	

## D Webドリル教材等の活用

	具体的な取組	工夫・成果等	Q&A
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。毎週末の宿題の配信。【自宅】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字学習に取り組めるようになってきた児童がいる。</li> <li>学習の機会が増え、充実感を感じている児童もいる。</li> <li>前学年の学習もできるため、保護者も喜んでいる。</li> </ul>	<p>Q7 徳島県GIGAスクールサポートサイト」にはどんな情報を掲載していますか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>A • 必要な情報等を随時掲載しています。ご活用ください。</p> <p>①授業実践動画 ②指導事例・指導案 ③アプリの活用法 ④持ち帰り関連 ⑤各種様式 等</p>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webドリル教材を使用した学習。【自宅】【別室】</li> </ul> <p>*Webドリル教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校できた日、学習内容が本人のレベルに合っていない授業の時等にタブレットによる学習に切り替えて、Webドリル教材を利用し、本人の進度に合った学習を個別に実施。</li> <li>学習の遅れが登校しぶりの大きな要因となっている現時点では、本人のペースに合った学習を提供できるタブレット等の活用は重要である。</li> </ul>	
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習動画を活用した学習。【自宅】【別室】</li> </ul> <p>*<u>学習動画</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの動画は短く、短時間で興味をひく内容なので、学習意欲の維持につながった。</li> </ul>	

### 【参照】

※Web会議システム…Zoom, Microsoft Teams, Google meet, etc  
 ※コミュニケーションツール…Microsoft Teams, Microsoft Forms, FaceTime, Classi, MetaMoji Classroom, etc  
 ※学習支援システム…MetaMoji Classroom, ロイロノート, Google classroom, Classi, etc  
 (授業支援システム)  
 ※Webドリル教材…学びポケット, ミライシード, スタディサプリ, ラインズ, スマイルドリル, ドリルパーク, キュビナ, すららドリル, ラインズeライブラリー, Classi, etc  
 ※学習動画…徳島県教育委員会 家庭学習応援サイト「とくしま まなびのサポート」, 「とくしま こころのサポート」, 徳島県GIGAスクールサポートサイト, NHK for school, etc

分類	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	
(1)基本的な操作等	(ア)アプリケーション操作	・教職員の指示やサポートを受ければ、学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習活動に応じて、アプリケーションの必要な機能を選択して操作することができる。	・アプリケーションの機能と特徴を理解し、場面や目的に応じて、必要な機能を使い分けることにより、効果的に活用することができる。また、様々な操作方法を自分で試行錯誤することにより習得し、作業効率を向上させることができる。	・目的に応じて、必要なアプリケーションを選択したり、複数のアプリケーションをその特質に応じて連携させたりして、効果的に作業を行うことができる。また、その際に授業支援アプリケーションを有効に活用し、他者との共同作業を行うことができる。
	(イ)カメラ機能活用	・カメラ機能を使って静止画や動画を撮影することができる。	・用途にあった撮影を行い、学習に活用することができる。	・静止画のサイズを変更したり、トリミングしたりするなど、必要に応じて加工することができる。	・静止画や動画について、利用する目的に応じて、構図やタイミングなどをあらかじめ構想し、適切なファイル形式、適切なファイルサイズを選択し、記録することができる。	・記録された静止画や動画のデータを、その目的に応じてより効果的に利用できるよう、必要なソフトウェアを用いて加工することができる。
	(ウ)文字入力	・タッチペンや指で、色や太さなどを使い分けて文字を書くことができる。	・キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができる。	・指示された時間内に、自分の考えや学習のまとめを正確にタイピング入力することができる。	・様々な学習場面で、必要とされる文字情報を、自ら吟味した言葉により、わかりやすく伝えるための工夫をしながら、必要な情報を正確に入力することができる。	・Webなどから得られる多様な資料をもとに論理的に考え、様々な観点から自分の意見や考えを、相手や目的に応じた方法でまとめ、効率を考えて入力することができる。
(2)問題解決・探究における情報活用	(ア)分類整理・まとめる力	・写真やファイルを保存したり、過去に保存したものを呼び出したりすることができる。	・名前を付けてファイルを保存したりフォルダを項目ごとに分類したりして、データを整理することができる。	・学習のめあてに沿って、収集した資料や情報を取捨選択し、わかりやすくまとめることができる。	・課題解決に向けて構想するために、フローチャート等に表示し、最適化を図ることができる。	・階層構造を考えてフォルダを作成し、複数のファイルをわかりやすく整理し、管理することができる。 ・目的に応じて情報と情報技術を適切に活用し、モデル化やシミュレーションを通して問題に対する多様な解決策を模索できる。
	(イ)プレゼンテーション力	・ペイントアプリ（プログラミングアプリ）で描いた絵や撮影した写真を用いて発表することができる。	・図や写真を貼り付けた簡単なスライドを提示しながら発表することができる。	・自分の考えが相手に伝わるよう工夫しながら、プレゼンテーションをすることができる。	・表、グラフ、アニメーション等を組み合わせたスライドを作成したり、ユニバーサルデザインに配慮したスライドを作成したりするなど聞き手にわかりやすく伝えることができる。	・プレゼンテーションソフトを使い、自らの意見や研究内容を適切にまとめたスライドショーを作成したり、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	(ウ)情報収集力	・教職員の指示やサポートを受けながら、必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を素早く検索、収集することができる。	・情報通信ネットワークからの効果的な情報の検索と検証の方法を適切に行うことができる。 ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順を考えることができる。	・インターネットや各種ファイル内から、目的や必要に応じた情報を効果的に検索・収集し、その妥当性や信頼性を吟味できる。
	(エ)コミュニケーション力	・オンラインで、画面上の相手とコミュニケーションすることができる。	・オンラインで話し合い活動に参加し、相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。	・画面共有機能で資料を提示したり、ホワイトボード機能で考えをまとめたりして、相手にわかりやすく伝えることができる。	・授業支援アプリやWeb会議システムの画面共有機能を使い、話し合い・発表・作品制作等の協働作業を行うことができる。	・MetaMoJiClassRoom, Classi, Zoomの共有機能を使い、意図する活動を実現するための手順を意識して、話し合い・発表・課題研究等の協働作業を行うことができる。
(3)情報モラル・情報セキュリティ	(ア)情報社会の倫理	・約束やきまりを守ってコンピュータを使うことができる。	・相手への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。	・他人や社会への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。	・ネットワークを利用する上での責任について考え、ルールや法律、違法な行為のみならず問題の重要性を理解し、対面での関係と同様に、他者を尊重し、適切に行動することができる。	・公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断を行い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。
	(イ)情報に関する権利	・人の考えや作品を大切にすることができる。	・自他の情報を大切にすることができる。	・情報にも権利があることを知り、尊重することができる。	・情報に関する自分や他人の権利があることを踏まえ、データの処理ができる。 ・著作権や知的財産権などの尊重が重要であることを理解し、適切に行動することができる。	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて理解し、考察することができる。
	(ウ)危険回避	・コンピュータは、大人と一緒に使い、危険を避けることができる。	・危険な目に遭ったときは、大人に知らせる適切に対応することができる。	・危険を予測し、避けるように心がけることができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を理解した上で、安全に行動することができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を科学的に理解した上で、それらについて適切に行動できるとともに、自ら情報発信し、他者への啓発を行うことができる。
	(エ)情報の取り扱い	・知らない人に個人情報を話すことが危険なことだと理解して行動できる。	・情報には誤ったものがあることを理解することができる。	・情報の正確さを判断する方法を知り、確認できる。	・情報が社会に果たしている役割や及ぼしている影響について理解し、適切に利用することができる。	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解し、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現された情報を評価・改善することができる。
	(オ)健康面への配慮	・決められた利用時間を守ることができる。	・利用時間を決め、守ることができる。	・健康を害する行動を自制することができる。	・自分の健康面に留意して、情報メディアの利用による健康を害する行動を自制することができる。	・情報機器の活用について、自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣についてその意義を理解し、自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
	(カ)情報セキュリティ	・パスワードの大切さを理解し、扱うことができる。	・ダウンロードは危険を伴うことがあることを理解し、コンピュータを使うことができる。	・個人情報やウイルスの簡単な知識を知り、注意しながらコンピュータを使うことができる。	・パスワードによる暗号化やバックアップ等、生活の中で必要となる情報セキュリティの重要性を理解して、行動することができる。	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解した上で、情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。

※ステップ1…小学校低学年の発達段階を想定したもの  
ステップ2…小学校中学年の発達段階を想定したもの  
ステップ3…小学校高学年の発達段階を想定したもの

ステップ4…中学校の発達段階を想定したもの  
ステップ5…高校の発達段階を想定したもの

## 校内研修実施報告書

研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別学習ソフト(ドリルパーク)の操作説明</li> <li>・ 授業支援ソフト(Meta Moji)を活用して、家庭学習の課題を児童にもたせる実践例の紹介</li> </ul>
研修日時	R3年5月13日(木)15:40～, R3年10月18日(月)16:10～
参加者数	11名
研修の概要	<p>①児童が個別学習ソフト(ドリルパーク)で漢字練習を行うときに、画面拡大の機能があることを紹介し、その操作説明を若手教員が行った。</p>  <p>②タブレットを児童に持ち帰らせたときに、家庭学習として授業支援ソフト(Meta Moji)でどのように課題を与えるか、研修を行った。音読のワークシートを見て、児童が詩を音読し、その音声を録音するという課題のもたせ方について、若手教員が実践例として紹介した。</p> 
工夫した点	<p>研修や終礼の最初の数分間という短時間で実施することで、発表者も聞く側も構えずに参加することができた。もっと知りたいという教員には、研修後に個別に教え合える場を意図的に設けた。</p>
成果	<p>若手教員が積極的に取り組んだ実践例を紹介することで、他の教員が刺激をもらい、活用するきっかけを得ることができた。</p> <p>実践例の効果だけではなく、改善点も伝えるという構えの研修だったので、発表者が気負わずに意欲的に発表することができた。</p>
課題	<p>授業支援ソフト(Meta Moji)を授業の中で効果的に活用する研修が十分でなく、実践に深まりが見られていない。じっくり時間をかけた研修の時間を意識的にとらなければいけないと感じている。</p>

## 校内研修実施報告書

研修内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「GIGAスクール構想」の意義、内容、学習方法の変化について</li> <li>2 タブレット・ICT機器の基本的な使用方法、タイピング等の指導方法</li> <li>3 インターネット・学習用アプリ等を使った学習指導について</li> <li>4 「プログラミング教育事業」の研究指定を受け研修を進める。</li> <li>5 ZOOMを利用した家庭との通信、遠隔授業について</li> </ol>
研修日時	4月22日, 5月13日, 9月22日, 10月7日, 10月14日 12月7日, 1月26日 (その他, 新しいアプリを導入した場合には, 随時研修を実施)
参加者数	34名
研修の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 GIGAスクール構想により, 学習環境がどのように変わり, 学習指導にどのようなメリットがあるかを理解する。</li> <li>2 児童用タブレットとその他のICT機器の基本的操作方法を習得し, それらを組み合わせた効果的な授業方法を確立する。</li> <li>3 インターネットや学習用アプリを使った学習指導方法を習得する。教育課程の年間計画に沿い, 利用計画を立てる。</li> <li>4 プログラミング学習の指導計画を見直し, 実践研究をする。</li> <li>5 ZOOMによる遠隔授業の方法を習得し, 実際に家庭にタブレットを持って帰らせて遠隔授業を行い, 問題点・改善点を確認する。</li> </ol>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団で計画・実践することにより, 情報交換・役割分担等をさせた。</li> <li>・総合教育センターやアプリの納入業者等, 専門的な知識のある外部人材を講師に招き, 研修を行った。</li> <li>・石井町のICT支援員との連携強化により, 教員の疑問や実践にあたっての問題点に即応できるようにした。</li> <li>・家庭との連携を図り, 遠隔授業を実際に行い, 教員の経験値を積んだ。</li> <li>・様々な補助金を有効に活用し, アプリや教材教具を揃えた。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は, 授業でタブレットや大型テレビ, 実物投影機等を使用し授業を進めていくことに抵抗があったが, 慣れてくるに従い, その便利さ, 効果の大きさを実感できた。</li> <li>・研究指定を受けることにより, より深く, ICT機器の利用について理解を深め, 学習指導に活用できるようになった。</li> <li>・突然の臨時休校の際にタブレットを配布し, ZOOMによる遠隔授業を行うことができた。研修を進め機器の利用を実践していたおかげで, 授業をスムーズに進められる場面が多かった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童用タブレットが導入されると同時に指導方法の研修も始めたので, 児童のタブレット利用のスタートが遅くなった。</li> <li>・低学年児童は, アルファベットによるパスワードの利用が難しかった。</li> <li>・研修で理解していたつもりだったが, 実際の利用場面ではいろいろな問題点が出て, その度に授業が止まることがあった。</li> <li>・ICT支援員が途中から他校との掛け持ちになり, 自由に支援を依頼できなくなったため, 新しい取り組みを始めるときは, できるだけICT支援員がいる日を選んで授業をした。</li> </ul>

## 校内研修実施報告書

研修内容	第1学年国語科研究授業 (一人一台タブレット端末を活用した授業づくり)
研修日時	令和3年12月2日(木)
参加者数	14名
研修の概要	<p>○研究授業 1学年 国語科「ものの名まえ」 ～ものの名まえをあつめておみせやさんをひらこう～</p> <p>○各教科の授業の中で、より高い教育効果をあげるために、どのような学習場面においてICTやタブレット端末をどのように活用するかを考え実践研究に取り組む。</p> <p>○今回の授業で使用したICT 大型ディスプレイ タブレット端末 (MetaMoJi Classroom)</p> <p>○授業の実際 ・店で売る品物を考える際にMetaMoJi Classroomを使用した。グループごとにワークシートを共有し共同で品物を書き出す活動を行った。 ・グループでまとめたワークシートを大型ディスプレイに映しだし、全体での話し合い活動に繋げる。 ・次時には、話し方の練習場面をタブレット端末で動画撮影し、互いのよさや改善点を見つける活動をする。</p> <p>○授業研究会 ICT活用を含めて、授業研究会で成果や課題について話し合った。</p>
工夫した点	<p>【授業では】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員と相談しながら授業展開や活用方法を考えた。</li> <li>・タブレット端末でワークシートを共有することで、児童は個別に考えながら、リアルタイムで友達の考えと交流することができ、自分の学びに生かすことができた。</li> <li>・ワークシートを共有する時には、記入欄を個別に色分けをして作成することで互いの分担箇所が明確に分かるようにした。</li> <li>・全体への説明が、タイムロスなく提示できる。</li> <li>・授業中残しておきたい指示や手引きは「板書」、発表には「ICT」と、用途での使い分けを行った。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、個別の学習場面とグループで学びを共有しさらに深めていく学習場面と、学習活動や内容に応じたICTの効果的な使い方ができた。</li> <li>・ICT支援員に授業のサポートに入ってもらったり、タブレットの使用について研修(全体・個別)の時間をとってもらったりすることで、教師・児童ともにタブレット端末活用のスキルが向上してきている。</li> <li>・学習アプリの使用方法については、総教センターの研修を受講した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において、タブレット端末やICTをどのように活用できるかは、今後の実践や他校の取組の情報収集などを通じて、蓄積していく必要がある。</li> </ul>



## 校内研修実施報告書

研修内容	<p>学力向上のためのタブレットの効果的な活用について研究し，教職員の指導力の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 タブレットの操作について</li> <li>2 授業におけるタブレットの効果的な活用方法について</li> </ol>
研修日時	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年5月から7月の期間（職員朝会時）</li> <li>2 令和3年11月18日（木），令和4年1月13日（木） 午後3時～（大学連携学力向上研修）</li> </ol>
参加者数	福井中学校教職員11名
研修の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎日の職員朝会の時間を活用し，情報教育主任がタブレットの基本的な操作について全教職員に説明した。</li> <li>2 県の「大学連携学力向上拠点校事業」を活用し，生徒の学力向上に向けた授業改善に取り組んだ。研究の中で，授業におけるタブレットの効果的な活用についても協議を行い，学習指導方法について職員間で情報共有を図った。また，鳴門教育大学の先生からもご助言をいただいた。</li> </ol>
工夫した点	<p>1では，1回3分程度ではあるが，毎日続けることに意義があった。毎日タブレットに触れること，1日ひとつの操作を学ぶことを意識し研修を行った。</p> <p>2では，教職員間でICTの活用に関する不安や質問等を共有し，教職員全体で考えていけるよう話し合いの場を設定した。</p>
成果	<p>1では，毎日少しの時間ではあるが，全教職員がタブレットに触れることで，ICTに対する苦手意識の解消につながった。</p> <p>2では，各教科の実践において，効果があった事例を情報共有し，自らの授業実践につなげることができた。</p>
課題	各教科によってタブレットの活用に差がある。また，どのような場面でタブレットを使用すると効果的かなど，タブレットの効果的な活用方法について，もっと研修を深めていくことが必要であると感じる。

## 校内研修実施報告書

研修内容	ICTスキル項目として設定されている能力の育成を目指して、タブレットPCを使用した研修を毎月の職員会後 GIGA スクール推進員を中心に30分程度行った。主な研修内容は、スキル項目①～⑤の習得を目指したものとなっており、主に授業時間中の活用とオンライン授業や家庭学習での活用に関する内容とした。研修の概要に、研修内容の詳細は記載する。
研修日時	毎月の職員会後等
参加者数	全職員
研修の概要	<p>授業中の学習活動の充実に向けて、次の内容を職員研修で習得し、実際に授業中に活用できるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PDF ファイル形式のワークシートを MicrosoftEdge で開き、タッチペンを活用して自分の考えを記入させる。(スキル項目①)</li> <li>・越天楽を鑑賞するという学習活動を進めるために必要なワークシートを校内 LAN やアプリケーションを活用して受け取らせたり、学習課題に対する考察を記述し提出させたりする。(スキル項目①)</li> <li>・ホワイトボード機能を活用することで、グループの話し合いで出た意見を共同編集させる。また、話し合いでまとめた意見を、教室正面の電子黒板にグループの意見を提示し可視化しながら全体に発表させる。(スキル項目②)</li> <li>・動画配信サイト(YouTube)を活用して鑑賞し、音曲だけでなく演奏の仕方や雰囲気を楽しむ。その際、各自にイヤホンを使用させ、自分の意見を構成するために必要な情報を繰り返し鑑賞することで収集させる。(スキル項目③)</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>写真は、実際に研修した内容を音楽科「越天楽の鑑賞」の学習活動で活用している様子である。</p> <p>また、オンライン授業配信のため、次のような研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MicrosoftTeams を活用して、授業のオンライン配信を行った。生徒にタブレット PC を家庭に持ち帰らせ、学活に参加させたり、教師の発問や質問に対して回答を書き込んだりさせる。(スキル項目①, ②)</li> <li>・MicrosoftTeams にログインする際のアカウント名やパスワードを生徒に考えさせ、セキュリティ対策のために考えたパスワードは教師以外には教えない、他の生徒のアカウントやパスワードは聞かないよう徹底させる。(スキル項目③, ④, ⑤)</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>写真は、実際に研修した内容をオンライン授業の配信を行い、学習活動で活用している様子である。</p>

工夫した点	職員会、メンター会議、学年会、職員朝会等、様々な場面を活用し、研修を積み重ねた。ICTに関して、気軽に質問できる雰囲気が醸成された。
成果	<p>「学習活動の成果物を効率的に回収したり、評価したりする」「グループで話し合った内容を効果的に全体に共有する」という授業を実現するため、毎月の職員会後に30分程度ICT活用についてのメンター研修や授業のオンライン配信に向けた職員研修を行っている。ICT活用について「いつでも聞ける」「いつでも相談できる」環境作りを行い、ICTを使用することに対する不安感は軽減されているように感じる。</p> <p>研修中に紹介されたアプリの中で、各授業者が活用できると感じたものを、「授業の中に1つ取り入れる」という目標を共有し、活用することを続けている。また、学習活動中に授業者が活用に関わったことや、生徒が負担感を感じていたことを授業者間で必ず共有している。その都度、使い方の改善や新たなアプリの導入を試みている。</p> <p>タブレットを使った新たな試みに取り組む際には、授業者が生徒に対して丁寧に説明を行い、タブレットを扱うことが得意な生徒がアドバイスや支援を行う姿も見られるようになった。そのため、タブレットを活用して学習活動に取り組むことができている。</p> <p>また、授業中の指導や取り組みに加え、集会等の機会を通じ、生徒指導主事をはじめ、全ての教職員からインターネットを使う際のネットリテラシーについての指導を行っている。引き続きタブレットPCを適切に使う意識を育てていくよう努めたい。</p>
課題	<p>授業中タブレットを活用することに加え、効果的に活用できるアプリを研究したり、活用したりするための知見は、職員間の連携により構築されつつある。</p> <p>ICTを活用するための実験的な取り組みや共有に、多少の時間を必要とするものの、今後も学習者の実態に応じた独自の課題が作成できるよう研修を続け、授業者・学習者ともに個別最適化された学習に取り組むことができるよう学校一丸となって取り組みたい。</p>

## 校内研修実施報告書

研修内容	児童生徒一人一台のタブレットを活用した授業の取り組み ～発展的な活用を進めるためのスキルを身に付ける～
研修日時	8月18日(水) 講師：鳴門教育大学 泰山 裕 准教授 9月2日(木) 講師：東京工業大学 赤堀 侃司 名誉教授 12月16日(木) 講師：放送大学 中川 一史 教授 ※新型コロナウイルス感染症予防の観点から、すべてオンラインによる研修
参加者数	小中学校教職員 30名
研修の概要	<p>【泰山先生】一人一台端末を活用した情報活用能力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTいろいろ試してみて、うまくいけば続け、だめならやめる。</li> <li>・考える力をどう育てるかを研究する。</li> <li>・学習の主導権を徐々に移項 → 活用場面は子どもに任せる。</li> <li>・当たり前の道具として、気軽にどんどん使ってみる。また、使える環境を整える。</li> </ul> <p>【赤堀先生】 GIGAスクール構想の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT等の道具は子どもの表現力を高める。</li> <li>・成功体験をさせる。</li> <li>・得意な子ども、不得意な子どもが協働で教え合う、伸び合う。</li> <li>・アカウントとパスワードを持つことは、自律と責任を持たせること。</li> </ul> <p>【中川先生】一人一台端末環境で実現する子どもの学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用デジタル教科書 読む教科書 → 書く教科書・共有する教科書 教科書 ⇔ ノート 個別 ⇔ 協働 授業 ⇔ 家庭</li> <li>・授業での効果的な活用だけでなく、朝学活、委員会活動、部活動などでの活用</li> <li>・単にドリル的な宿題を行うだけでなく、例えば、授業で活用</li> </ul>

	<p>したMetaMoJiでのワークシートを家庭で深い学びにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの7つのしやすさ <ul style="list-style-type: none"> <li>①書きやすい・消しやすい</li> <li>②動かしやすい・試しやすい</li> <li>③共有しやすい・連動しやすい</li> <li>④大きくしやすい</li> <li>⑤繰り返しやすい</li> <li>⑥残しやすい</li> <li>⑦説明しやすい</li> </ul> </li> <li>・AIやデータの力を活用することで、自らの強みをさらに伸ばし、あるいは弱点を補いながら新たな地平を切り拓いていく。</li> </ul>
工夫した点	<p>本校は、ICTを活用した授業展開が得意な教職員がほとんどで、基礎・基本となる研修よりも、発展的な活用を進めるためのスキルを身に付けるため、講師の選定や内容を検討した。そこで、全国でGIGIスクール構想の最前線で活躍されている先生方を講師として依頼し、大変レベルの高い研修を行うことができた。講師への研修依頼に関しては、教育委員会にも協力をお願いして3人もの講師による研修が実現した。以上のように本校教職員の実態に応じた研修になるよう工夫した。</p>
成果	<p>講師の先生方3人とも非常に有能な方々ばかりで、研修を受ける機会があったとしても、首都圏を中心とした大会場、大人数であることがほとんどであるが、今回、本校教職員少人数だけの研修が行えたため、実態に応じた、さらに気軽に質疑ができるなど、直接授業力向上に結びつく研修が行えた。</p>
課題	<p>全国で講演、研修を行っている多忙な講師の先生方に研修依頼をしたのが、今年度入ってからであったため、日程調整が難しかった。できれば、前年度から次年度に向けての研修計画・予算確保が必要であると感じた。また、各先生方には90分程度の研修を一度だけしていただいたが、できれば同じ先生に年間を通じて2～3回の継続した研修を行うことができれば、進捗状況なども踏まえて研修が行え、さらに有効だと考えられる。</p>

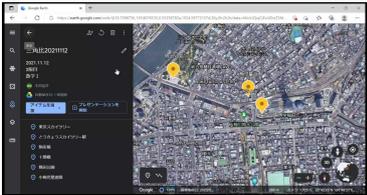
## 校内研修実施報告書

研修内容	G I G Aスクール構想サポート事業を活用した校内研修 1 G I G Aスクール構想の趣旨についての研修 2 M e t a M o j i C l a s s R o o mの活用方法
研修日時	令和3年6月21日(月)午後2時30分～午後3時30分
参加者数	60名
研修の概要	1 G I G Aスクール構想の趣旨について ・徳島県G I G Aスクール構想の共通理解 2 個別学習・協働学習に授業支援アプリを活用しよう！ M e t a M o j i C l a s s R o o mの操作実習 ・操作実習 ・授業体験 3 まとめ
工夫した点	1人1台端末を積極的に活用するために、全教員で研修に臨みM e t a M o j i C l a s s R o o mを活用した参加型研修を行った。指導する側と生徒の立場に立っての体験を重視した。
成果	参加体験型の研修を行うことで教員間の情報共有を行うことができた。実際、研修後は授業で積極的に活用する教員もおり校内における好事例として蓄積されている。 M e t a M o j i C l a s s R o o mだけではなくO f f i c e 3 6 5やC l a s s iといった学習支援サービスを積極的に活用していく風土作りの一環となった。 また、授業の様子を参観したり、働き方改革の方向性を模索したりするなど良い方向にI C Tを活用していこうとしている。実践の様子は、G I G Aスクール実践動画コンテストに多数応募することができた。
課題	M e t a M o j i C l a s s R o o mを活用しての授業・指導案や教材の蓄積が必要である。教科会や教材研究の時間確保が課題である。

## 校内研修実施報告書

研修内容	Classi画面操作説明会
研修日時	令和3年6月29日（火）午後4時から5時まで
参加者数	60名
研修の概要	<p>講師 Classi株式会社 室賀元伸 氏          場所 職員室</p> <p>1 Classiの具体的な利用方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒，保護者への連絡方法（校内グループ）</li> <li>②保護者からの欠席連絡（欠席連絡）</li> <li>③生徒への課題配信・確認（Webテスト/学習動画）</li> <li>④生徒の学習状況を確認（学習記録）</li> <li>⑤体温調査の作成方法（アンケート）</li> </ul> <p>2 質疑応答</p>
工夫した点	講師先生のタブレット画面や資料をスクリーンに掲示するとともに，先生方一人一人が外部用タブレットを操作するようにし，興味・関心と理解力の向上に努めた。
成果	Classiの特徴である生徒への課題配信が用意されたものが多数あり，生徒への週末課題や長期休業中課題などに利用できると，先生方も興味・関心を持って参加することができた。
課題	農業など専門教科の課題がなく，自作しなければいけない点が残念に思われた。

## 校内研修実施報告書

<p>研修内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子黒板と1人1台端末の活用</li> <li>○ アプリ（「Teams」「Google Earth」）の活用を有効的に使用できるための事前研修と研究授業</li> </ul>																												
<p>研修日時</p>	<p>令和3年11月12日（金）</p>																												
<p>参加者数</p>	<p>20名</p>																												
<p>研修の概要</p>	<p>ICTを有効的に活用する授業実践として、「数学I」の授業の研究授業を行った。まず、研究授業前に教員どうして模擬授業を行い、アプリの使用などについて使用方法を共有した。模擬授業にて出た課題や反省点をふまえ、研究授業を行った。</p> <p>【内容】三角比を用いて目的物の高さを求める単元である。本授業では目的物を「東京スカイツリー」にして、東京の各地を設定し、そこからの仰角は提示した。生徒は「Google Earth」で水平距離を求め、仰角を用いた三角比を使って高さを求めるものである。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">計測地点</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">1st</th> <th style="width: 45%;">スカイツリーの観測実験</th> <th style="width: 15%;">2nd</th> <th style="width: 25%;">結果共有</th> </tr> <tr> <th></th> <th>場所</th> <th></th> <th>仰角</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1班</td> <td>とうきょうスカイツリー駅</td> <td></td> <td>76°</td> </tr> <tr> <td>2班</td> <td>てまかたばし 駒形橋</td> <td></td> <td>27°</td> </tr> <tr> <td>3班</td> <td>じょっほんほし 十間橋</td> <td></td> <td>42°</td> </tr> <tr> <td>4班</td> <td>すきたこうまん 隅田公園</td> <td></td> <td>42°</td> </tr> <tr> <td>5班</td> <td>こうめじどうゆうえん 小梅児童遊園</td> <td></td> <td>69°</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">グーグルアースの映像を見せます。観測していることをイメージしながら見てください。</p> </div>   <p style="text-align: right; margin-top: 5px;">（以下の写真は授業の一部）</p> </div>	1st	スカイツリーの観測実験	2nd	結果共有		場所		仰角	1班	とうきょうスカイツリー駅		76°	2班	てまかたばし 駒形橋		27°	3班	じょっほんほし 十間橋		42°	4班	すきたこうまん 隅田公園		42°	5班	こうめじどうゆうえん 小梅児童遊園		69°
1st	スカイツリーの観測実験	2nd	結果共有																										
	場所		仰角																										
1班	とうきょうスカイツリー駅		76°																										
2班	てまかたばし 駒形橋		27°																										
3班	じょっほんほし 十間橋		42°																										
4班	すきたこうまん 隅田公園		42°																										
5班	こうめじどうゆうえん 小梅児童遊園		69°																										
<p>工夫した点</p>	<p>教員間でICTの利用の積極的な活用を促すために、模擬研修を事前に行った。使用方法を共有することで、教員間の意見交換が活発に行う様子が確認された。</p>																												
<p>成果</p>	<p>研究授業では「Google Earth」を電子黒板で一斉に見せることで、視覚的に関心を与えるだけでなく、目的意識をはっきりとさせることに成功した。大画面を全員でみることは、生徒の意識を集中させやすいことを改めて実感した。また、生徒からの気づきがあればその時々で止まり、説明することが容易であった。</p> <p>また、実際の授業を教員間で共通認識することで、操作技術を教えあったり、アプリの説明をしあったりするなど、教員のICTへの関心を高めることができた。</p>																												
<p>課題</p>	<p>アプリの使い方や、サイトの利用方法など、事前に用意するものが多いのは難点である。しかし、教科間での連携をとり、生徒にとって1回きりの授業ではなくアプリやサイトに慣れていつでも有効的に使える環境づくりをしていきたい。</p>																												

## 校内ミニ研修報告書

アプリケーション名	えこみゆ
アプリケーション概要	<p>気持ちを伝えるカードアプリ。 オリジナルカードも作れます。発語によるコミュニケーションが難しいお子さんのコミュニケーションをサポートするアプリです。意思表示はもちろん、ことばの学習にもお使いいただけます。</p> <p>日常で使える200種類の絵カードすべてに音声がついています。さらに複数言語に対応しています。</p> <p>好きな写真と録音でオリジナルカードも作れます。</p> <p>また、カードの選択肢を限定できるので、初期学習にも対応できます。</p> <p>広告表示は一切ありませんので、お子様のご利用でも安心です。</p>
①学習場面	
・教科等	( 国語 生活単元学習 )
・学習形態	( ) 一斉学習 ( ) 協働学習 ( <input checked="" type="radio"/> ) 個別学習
・場所	( <input checked="" type="radio"/> ) 学校 ( ) 自宅
②見込める効果	言葉の学習ができたり、他者とコミュニケーションがとれる。
③実際の効果	発語が難しい生徒とコミュニケーションがとれ、あいさつや報告、援助要求などができる。イラストがあり視覚的に分かりやすい。
④使用にあたって工夫した点	活用する場面を設定し、はじめは操作の練習などを行った。
障がい種別	<input type="checkbox"/> 視覚 <input type="checkbox"/> 聴覚 <input checked="" type="checkbox"/> 知的 <input type="checkbox"/> 肢体 <input type="checkbox"/> 病弱 <input type="checkbox"/> 重複(重度)
学部	( ) 小学部 ( <input checked="" type="radio"/> ) 中学部 ( ) 高等部

アプリケーション名	アイビスペイントX
アプリケーション概要	アイビスペイントXはシリーズ1億5千万ダウンロードの大人気本格お絵かきアプリです！2,700点以上の素材！2,000種以上のブラシ！1,100種類以上のフォント！75本の画像加工用フィルター！46種のスクリーントーン！27種のレイヤーブレンドモード！作画工程動画機能！手振れ補正機能！定規機能！集中線定規！対称定規！クリッピングマスク！
①学習場面 ・教科等 ・学習形態 ・場所	(            作業学習            ) (    ) 一斉学習    (    ) 協働学習    (   ○   ) 個別学習 (   ○   ) 学校            (    ) 自宅
②見込める効果	指や入力装置など、生徒の実態に合わせた方法でイラストを描くことができる。
③実際の効果	生徒の実態にあった機能を使って年賀状のイラストやポスターのデザイン、できあがったデザインを3Dプリンターで立体化するなど様々な作品を作ることができた。
④使用にあたって工夫した点	本アプリ以外のソフトウェアと組み合わせることで作品の幅が広がった。
障がい種別	(    ) 視覚    (    ) 聴覚    (   ○   ) 知的 (   ○   ) 肢体    (   ○   ) 病弱    (    ) 重複(重度)
学部	(    ) 小学部    (    ) 中学部    (   ○   ) 高等部

アプリケーション名	絵カードタイマー
アプリケーション概要	<p>シンプルなタイマーに絵カード表示機能を付加しました。</p> <p>主に自閉症など、時間の把握が難しい方へのタイムエイドとしての使用に適しています。</p> <p>残り時間を視覚的に分かりやすく表示するだけでなく、同時に絵カードを表示することで、何のための時間かを明確にします。</p>
①学習場面 ・教科等 ・学習形態 ・場所	<p>作業の作業時間・どんな作業をしているのかを知らせるとき</p> <p>(作業学習(機織り・手工芸) )</p> <p>( ) 一斉学習 ( ) 協働学習 ( <input checked="" type="radio"/> ) 個別学習</p> <p>( <input checked="" type="radio"/> ) 学校 ( ) 自宅</p>
②見込める効果	<p>時間が減っていく様子が視覚的にわかりやすい(赤が減っていく)ので、どのくらい作業をして良いのか、画像と文字で何の作業をしているのか視覚的にわかりやすい。</p>
③実際の効果	<p>数字のみのタイマーより時間が減っていている様子がわかりやすいのか、赤い部分がなくなりそうになったら、「おわ」といって、終了を伝えることがあった。</p>
④使用にあたって工夫した点	<p>何の活動(機織り作業, 運動など)をしているのか視覚的に分かるように活動の写真も掲載して活用した。</p>
障がい種別	<p>( ) 視覚 ( ) 聴覚 ( <input checked="" type="radio"/> ) 知的  ( <input checked="" type="radio"/> ) 肢体 ( ) 病弱 ( ) 重複(重度)</p>
学部	<p>( ) 小学部 ( ) 中学部 ( <input checked="" type="radio"/> ) 高等部</p>